

県内経済は、生産活動の増勢が一服、雇用情勢は悪化傾向、個人消費、公共工事などは減少傾向にあり、弱含みの停滞局面にある。

1. 平成20年2月の県内経済

消費動向をみると、うるう年で1営業日多い影響もあり大型小売店販売額は、11ヵ月ぶりで前年を上回った。乗用車新車登録台数は、大型乗用車は依然低迷しているが、中小型乗用車、軽自動車はともに2ヵ月連続で増加し全体でも2ヵ月連続して前年を上回った。生産活動は、外需に支えられた鉄鋼、一般機械などの業種は堅調であるが、増勢基調に一服感がみられる。投資動向をみると、公共工事は、県・市町村の発注減が継続しているものの国からの発注増により請負金額は前年を上回った。民間の建築着工は、前月、下げ止まった棟数、床面積、工事予定額が再び前年を下回った。新設住宅着工戸数は、分譲で増加し3ヵ月連続で前年を上回った。雇用情勢は、新規求人数が減少傾向にある中、新規求人倍率、有効求人倍率はともに若干上昇したが、有効求人倍率は平成17年10月以来となる0.7倍台に止まった。

住宅建設、民間建設着工は、改正建築基準法の影響がやや薄れてきたが、生産活動は増勢基調に一服感がみられ、公共工事の減少、雇用情勢の悪化傾向とともに、原油を始めとする原材料価格高騰の影響は様々な業態に及び、県内経済は弱含みの停滞局面にあるとみられる。

〔消費動向〕 減少：大型小売店販売額（全店舗）は、婦人・子供服などの衣料品やバッグ、履物などの身の回り品などが引き続き低調だったものの飲食料品が好調で、うるう年効果もあり11ヵ月ぶりに前年を上回った。乗用車新車登録台数は、大型乗用車が引き続き低調だったものの中小型乗用車および軽乗用車が再び前年を上回り、全体でも前年を上回った。消費者物価指数は、2ヵ月ぶりに前月比上昇し、前年比でも6ヵ月連続して上昇した。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、エアコンは堅調、薄型テレビは一服、デジタルカメラ、パソコン、携帯電話などは低調で全体では前年をやや下回る水準で推移した。ホームセンターは、家庭用品などが堅調で全体では前年をやや上回る水準で推移した。旅行取扱額は、海外個人・団体旅行が伸び悩み全体では前年を下回った。

〔投資動向〕 減少：公共工事前払取扱保証請負金額は、国からの発注増加により2ヵ月ぶりに前年を上回った。1月の建設着工棟数（民間・非居住用）は、前月、9ヵ月ぶりに前年を上回ったが再び前年を下回った。床面積および工事予定額も前月、ともに6ヵ月ぶりに前年を上回ったが再び前年を下回った。新設住宅着工戸数は、分譲が増加し3ヵ月連続で前年を上回った。

〔生産活動〕 増勢が一服：1月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、109.7で前月比1.4%上昇し、一部の業種に弱さがみられるものの2ヵ月連続の上昇となった。原指数は、101.2で前年比4.0%の上昇となった。大口電力販売量は、前年比14.2%増加し増加基調で推移した。

〔企業倒産〕 悪化：倒産件数は、5ヵ月連続で2桁台で推移し、倒産金額は前月比では減少したものの前年比では大幅に増加するなど依然悪化増勢基調にある。

〔金融動向〕 低調：1月末の預金残高は、12ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、14ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向〕 悪化傾向：新規求人数は、4ヵ月連続して前年比で減少した。新規求人倍率、有効求人倍率はともに2ヵ月ぶりに前月を上回った。

県内経済動向の概要

	項 目	平成19年12月		平成20年 1 月		2 月	
		前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	➡	➡	➡	➡	➡	➡
	乗用車新車登録台数	➡	➡	➡	➡	➡	➡
	消費者物価指数（総合）	➡	➡	➡	➡	➡	➡
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	➡	➡	➡	➡	➡	➡
	建設着工棟数（民間・非居住用）	➡	➡	➡	➡	-	-
	新設住宅着工戸数	➡	➡	➡	➡	➡	➡
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	➡	➡	➡	➡	-	-
	大口電力販売量	➡	➡	➡	➡	➡	➡
企業倒産	企業倒産件数	➡	➡	➡	➡	➡	➡
	企業倒産金額	➡	➡	➡	➡	➡	➡
金融動向	預 金	➡	➡	➡	➡	➡	➡
	貸 出 金	➡	➡	➡	➡	➡	➡
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	➡	➡	➡	➡	➡	➡
	新規求人倍率（パート含む）注2	➡	➡	➡	➡	➡	➡

良化 ➡ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇔ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇐ 悪化 ➡

注1：季節調整値。 注2：季節調整値。

2. 県内経済動向

— 消費動向 —

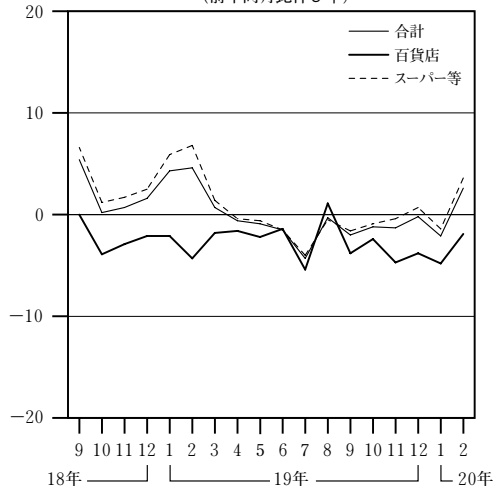
大型小売店 2月の県内大型小売店の販売額は、婦人・子供服などの衣料品、バッグ・アクセサリ・履物類などの身の回り品などが引き続き低調に推移したものの、飲食料品、家庭用品などが好調で全店舗ベースでは173億62百万円（前年同月比2.6%増）となった。うるう年で営業日が例年より一日多い影響もあり11ヵ月ぶりに前年を上回った。また、既存店ベースでも、同0.9%増となり6ヵ月ぶりに前年を上回った。

業態別に内訳をみると百貨店は、飲食料品は好調だったものの、主力の婦人衣料品や婦人ブーツなどの身の回り品などが振るわず、合計では30億5百万円（同1.9%減）となり6ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、衣料品、身の回り品などが引き続き低調だったものの、主力の飲食料品が好調に推移し、合計では143億57百万円（同3.6%増）となり2ヵ月ぶりに前年を上回った。

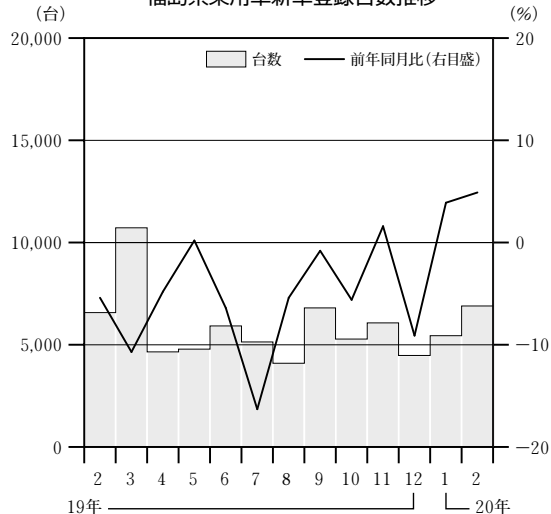
乗用車販売 2月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で6,949台（前年同月比4.9%増）となり2ヵ月連続で前年を上回った。車種別で見ると、大型乗用車は763台（同15.2%減）となり14ヵ月連続して前年を下回った。一方、主力の中小型乗用車は3,544台（同13.6%増）となり2ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車も2,642台

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

(同1.4%増)となり2ヵ月連続で前年を上回った。

2月の乗用車中古車登録台数(軽自動車は名義変更を含む)は、合計で11,117台(前年同月比2.7%増)となった。車種別にみると、大型乗用車で3,063台(同0.5%増)となり4ヵ月ぶりに前年を上回った。中小型乗用車は4,372台(同1.7%減)となり9ヵ月連続して前年を下回った。一方、軽乗用車は3,682台(同10.7%増)となり5ヵ月連続して前年を上回った。

消費者物価指数 2月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)でみると、101.0(前月比+0.1%)となり2ヵ月ぶりに前月を上回った。前年同月比でも+1.7%と6ヵ月連続となる大幅な上昇となった。費目別の指数動向をみると、「食料」で102.3(前月比+0.6%)と3ヵ月連続、「教養娯楽」で96.1(同+0.2%)と2ヵ月ぶりの上昇となった。前月比で変らなかった「家具・家事用品」は98.2(同+2.0%)、「住居」は99.9(同+0.1%)となり、ともに上昇に転じた。

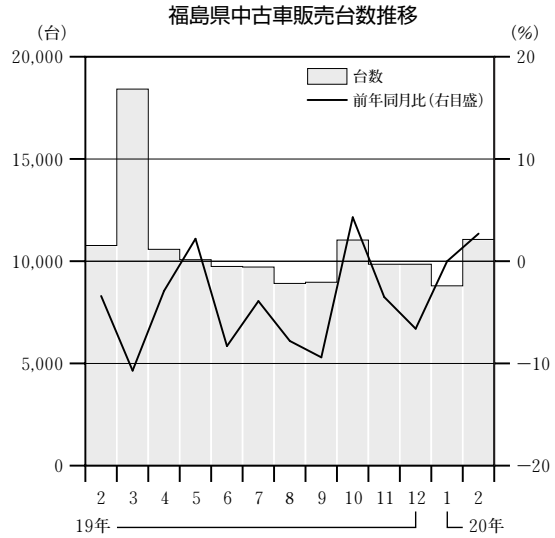
一方、「光熱・水道」で108.1(同△0.3%)と5ヵ月ぶり、「被服及び履物」で94.1(同△1.9%)と3ヵ月連続、「交通通信」で102.8(同△0.2%)と2ヵ月連続でいずれも前月を下回った。「保健医療」は98.5、「教育」は101.3となり前月比で変らなかった。

家電量販店 2月の売上は、エアコンは堅調、DVDレコーダーは動きがみえ始めたが、薄型テレビは一服、それ以外のパソコン、携帯電話、デジタルカメラなどは引き続き低調で、全体では前年をやや下回る水準で推移した。

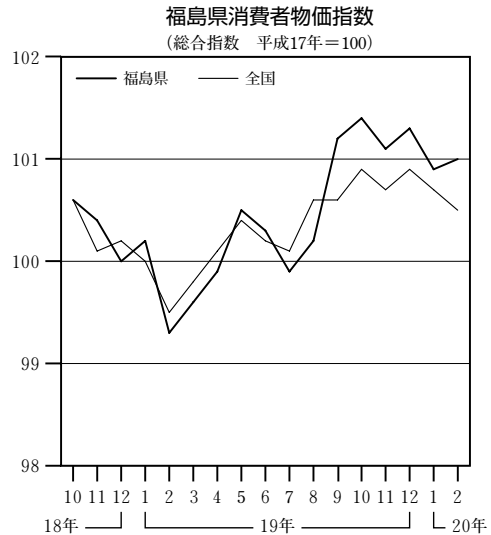
ホームセンター 2月の売上は、家庭用品、DIY商品などが堅調で、商品単価の引き上げなどもあり全体では前年をやや上回る水準で推移した。

旅行 2月の旅行取扱額実績のうち、国内個人は近場の温泉地、海外個人はハワイで増加したが、国内団体、海外団体はともに低調だった。海外旅行は団体・個人がともに燃油特別付加運賃の上昇などから伸び悩みの傾向がみられ全体の取扱額も前年を下回った。

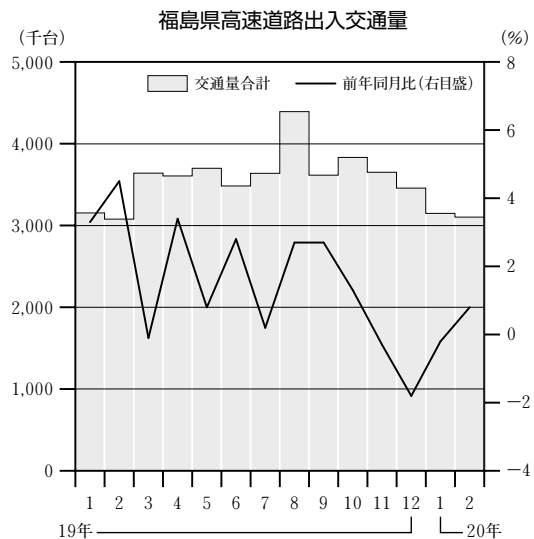
高速道路 2月の県内自動車道通過台数は3,115,459台(前年同月比0.8%増)となり、4ヵ月ぶりに前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道(白河IC~国見IC)で1,860,006台(同2.0%増)、磐越自動車道(いわき三和IC~郡山東IC)で



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料: (社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



(資料: 総務省統計局)



(資料: 東日本高速道路(株)東北支社)

214,050台（同2.4%増）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）で444,882台（同2.2%減）、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）で596,521台（同1.1%減）となった。

福島空港 1月の福島空港国内定期路線の利用状況は、24,542人（前年同月比10.8%減）となり4ヵ月連続して前年を下回った。路線別にみると、札幌便で6,396人（同11.0%減）、大阪便で12,942人（同3.9%減）、沖縄便で5,204人（同8.6%減）となった。なお、名古屋便は、12月より休便となった。一方、国際線の利用状況は4,605人（前年同月比19.6%減）となり2ヵ月連続して前年を下回った。路線別にみると上海便で1,535人（同21.2%増）、ソウル便で3,070人（同31.2%減）となった。

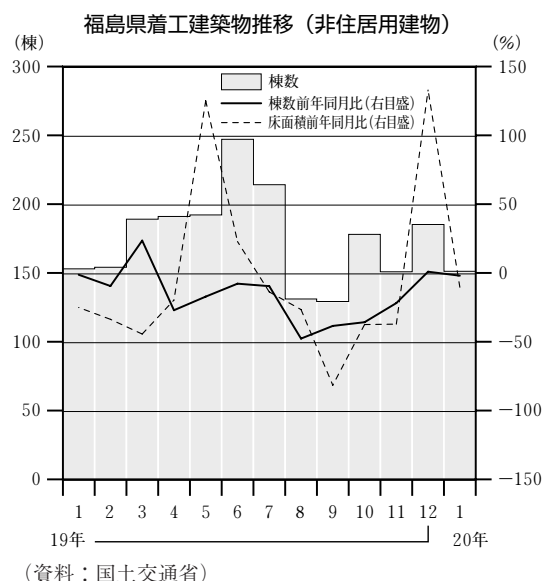
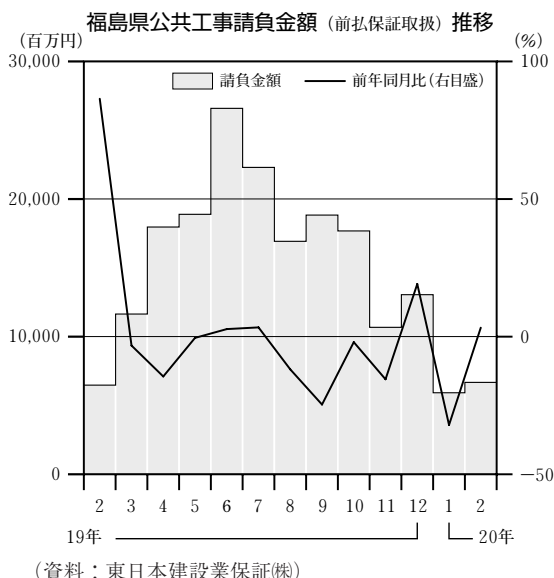
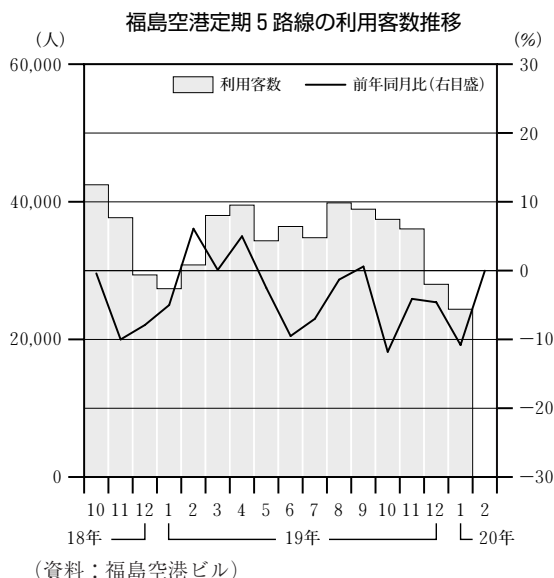
—— 投資動向 ——

公共工事 2月の公共工事前払保証取扱は、件数で330件（前年同月比16.9%減）、請負金額で66億91百万円（同2.7%増）、保証金額で31億24百万円（同23.7%増）となった。件数は、県、市町村からの発注減により2ヵ月連続で前年を下回った。請負金額、保証金額については、国からの発注が引き続き増加し、いずれも2ヵ月ぶりに前年を上回った。

平成19年4月から平成20年2月までの累計では、件数は前年同期比358件減少し5,885件（同5.7%減）、請負金額は同134億36百万円減少し1,757億91百万円（同7.1%減）、保証金額は同60億46百万円減少し681億62百万円（同8.1%減）となった。

発注者別の累計請負金額では、国は前年同期比90億93百万円増加し266億32百万円（同51.8%増）となったが、厳しい財政事情から公共事業費削減が続く県は同126億14百万円減少し619億75百万円（同16.9%減）、市町村は同72億93百万円減少し722億63百万円（同9.2%減）となった。

設備投資 1月の建築着工（民間・非居住用）の棟数は152棟（前年同月比1.3%減）となった。棟数は前月、9ヵ月ぶりに下げ止まったが再び前年を下回った。床面積、工事費予定額についても、床面積で45,988㎡（同9.7%減）、工事費予定額で41億15百万円（同43.4%減）となりともに前月、6ヵ月ぶりに下げ止まったが再び前年を下回った。



2月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、725件（前年同月比6.0%増）となり4ヵ月ぶりに前年を上回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は165件（同7.8%増）となり2ヵ月連続して前年を上回った。4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は560件（同5.5%増）となり2ヵ月ぶりに前年を上回った。構造計算適合性判定の合格件数は前月より2件減少し23件となった。

一方、2月の建築物申請件数は、760件（同0.9%減）となり4ヵ月ぶりに前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は152件（同11.6%減）となり2ヵ月ぶりに前年を下回った。4号建物は608件（同2.2%増）となり2ヵ月ぶりに前年を上回った。構造計算適合性判定の申請件数は前月より2件減少し16件となった。

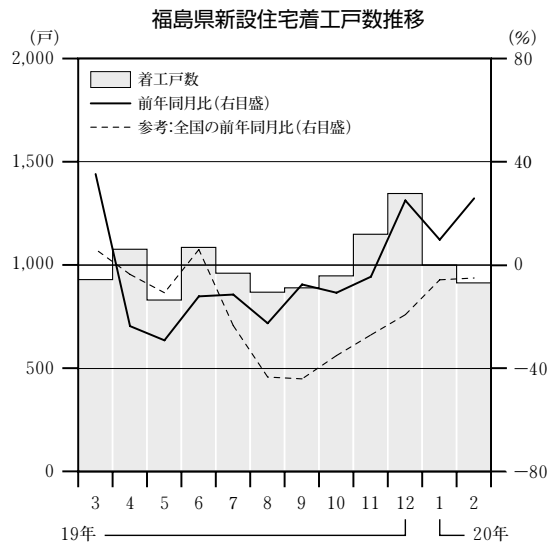
住宅建設 2月の県内新設住宅着工戸数は、913戸（前年同月比25.8%増）となり3ヵ月連続で前年を上回った。増加主因は、分譲が213戸（うちマンションが160戸）となり、前年同月の分譲34戸（うちマンション8戸）より大幅に増加したことによる。主な利用関係別でみると、持家は371戸（前年同月比8.8%減）となり2ヵ月連続で前月を下回った。一方、貸家は311戸（同9.1%増）となり4ヵ月連続、分譲は213戸（同526.5%増）となり2ヵ月連続でともに前月を上回った。

— 生産活動 —

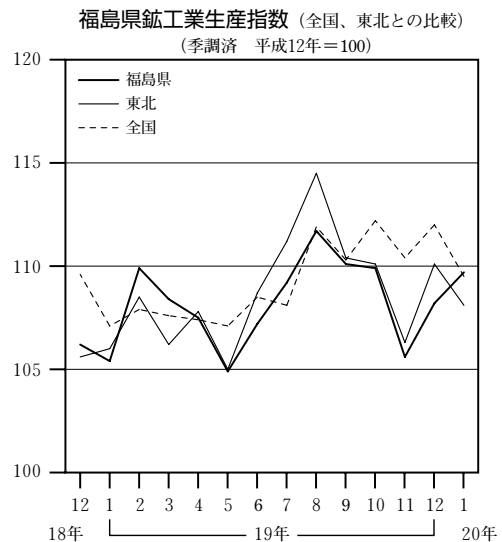
鉱工業生産指数 1月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると前月比1.4%上昇の109.7となり2ヵ月連続で上昇した。原指数では、前年同月比4.0%上昇し101.2となった。

上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）は、一般機械工業で139.1（前月比11.0%増）、パルプ・紙・紙加工業で120.1（同9.2%増）、化学工業で95.0（同4.2%増）となり、8業種が上昇した。一方、木材・木製品工業で42.7（同19.3%減）、繊維工業で66.9（同15.4%減）、食料品・たばこ工業で78.2（同9.6%減）となり11業種が低下した。

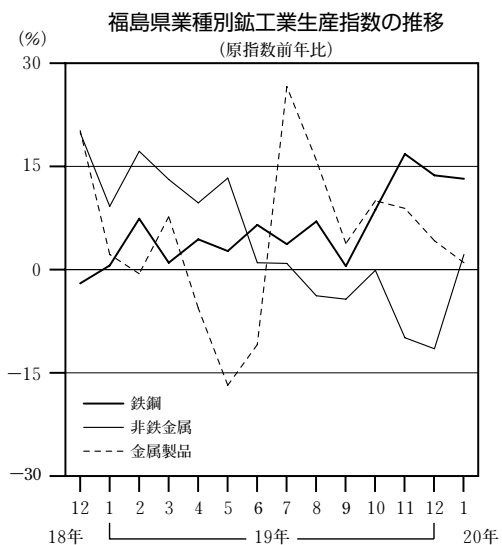
化学 2月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内外の好調な受注を背景に、前年を上回る高水準で推移した。金属代替プラスチックや炭素



(資料：国土交通省)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)

繊維についても、世界的な需要が堅調で好調な生産が続いている。

2月の酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）の生産は、前年並みの水準で推移した。バリウム化合物（電子部品原料）、電子材料の生産などを中心に前年を上回る水準で推移した。

鉄鋼・金属 2月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材で前年をやや上回る水準となり、半導体向け電子材は前年並みの水準で推移した。建機用は、海外（中国、オーストラリア、中央アジア等）から鉱物資源用などの受注が引き続き堅調で前年を上回る生産が続いている。車両用は、新幹線およびJR中央線・京浜東北線の更新需要および台湾、ドバイなど海外からの受注に支えられ、堅調に推移している。陸上プラントおよび船舶用バルブ部品は、原子力関連などの受注もあり前年を上回る高水準の生産が続いている。

輸送用機械 2月の自動車用鋳造品の生産は、国内は一服状態、海外は北米市場で減少基調にあるものの、東南アジアや中南米向けなどの輸出が引き続き好調で前年を上回る高水準で推移した。

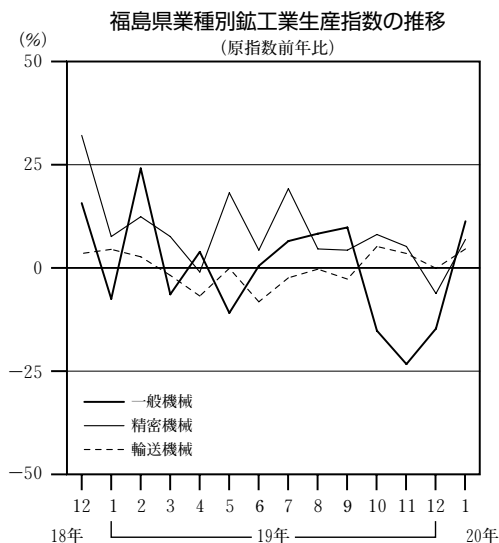
電気機械 2月の変圧器、電熱炉、変圧器、配電盤、自動車モーターなどの生産は、堅調な受注に支えられ前年を上回る水準で推移した。

情報通信機械 2月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア・中近東（インド、トルコ等）などからの引き続き好調な受注を背景に、前年を大幅に上回った。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、ほぼ前年並みの水準で推移した。

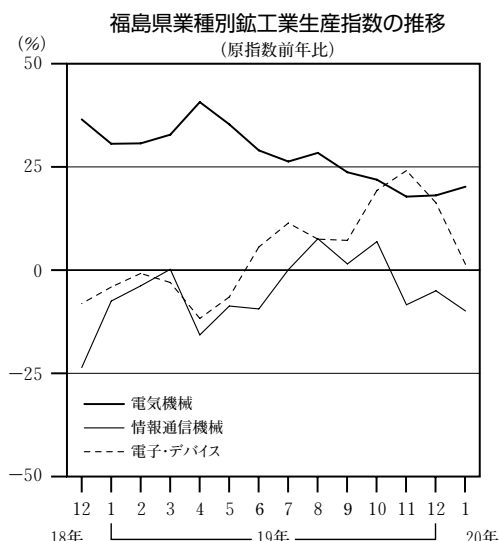
電子部品・デバイス 2月のLSI（大規模集積回路）の生産は、主力のAV、ゲーム機、家電および通信向けは堅調だったが、産業機器、パソコン・OA向け、携帯電話向けが前年をやや下回り、全体では前年をやや下回る水準で推移した。

精密機械 2月の医療用内視鏡の生産は、堅調な受注に支えられ、前年をやや上回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、海外市場環境が厳しく前年をやや下回る水準で推移した。

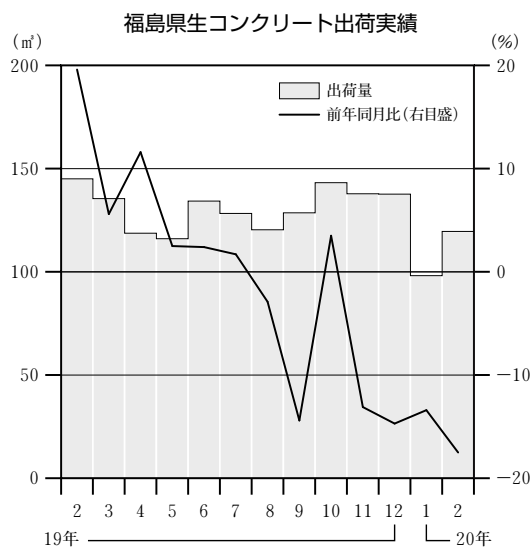
紙・紙加工品 2月の段ボールの生産は、堅調な受注に支えられ、前年をやや上回る水準で推移した。ノーカーボン紙の生産は、前年をやや上回る水準で推移した。感熱紙、インクジェット紙については、前年をやや下回った。



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)



(資料：福島県企画調整部情報統計領域)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

窯業・土石 2月の生コンクリート出荷量は、民需、官公需ともに低迷し120,085^m（前年同月比17.5%減）となり4ヵ月連続で前年を下回った。

増加（官公需）地区は、引き続き東北中央高速道路工事など実施されている県北地区となった。

木材・木製品 12月の素材（丸太など）の入荷量は、20,625^m（前年同月比9.9%減）、販売量は20,169^m（同10.6%減）となり、ともに2ヵ月ぶりに前年を下回った。製材品（合板など）の入荷量は、1,743^m（同47.8%減）、販売量は1,583^m（同36.1%減）と大幅な減少となり、ともに7ヵ月連続で前年を下回った。

12月の木造率は、新設住宅着工戸数1,346戸のうち、木造戸数は1,011戸で75.1%となった。

清酒 2月の清酒移出数量は、1,505kl（前年同月比5.0%増）となり10ヵ月ぶりに前年を上回った。

タイプ別には、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）は402kl（同6.1%増）となり4ヵ月ぶり、一般酒（特定名称酒以外の酒）は1,103kl（同4.6%増）となり10ヵ月ぶりに、ともに前年を上回った。

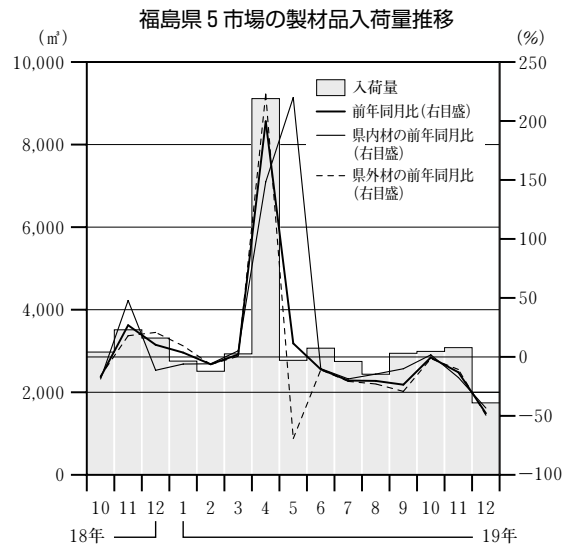
化合繊維物 2月のナイロンの生産は、ダウンジャケット（表地）向けを中心に前年をやや上回る水準で推移した。ポリエステルは、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に横這いで推移した。

ニット 2月のニットは、展示会用サンプル生産および高級品を中心に横這いで推移した。

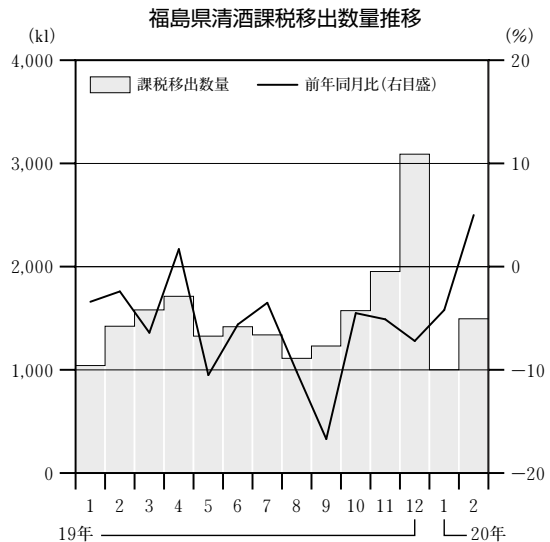
大口電力 2月の大口電力販売量は、586百万kw/h（前年同月比14.2%増）となった。主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で122百万kw/h（前年同月比10.6%増）、「非鉄金属」で118百万kw/h（同42.1%増）、「化学」で57百万kw/h（同8.8%増）、「輸送用機械」で62百万kw/h（同11.7%増）、「一般機械」で32百万kw/h（同6.7%増）、「紙・パルプ」で28百万kw/h（同1.7%減）となった。

— 企業倒産 —

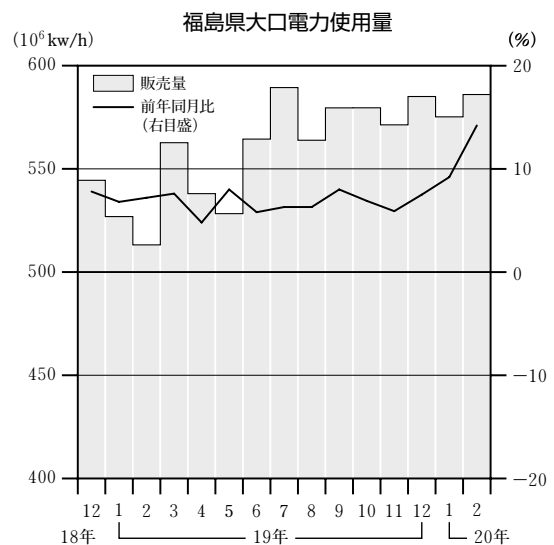
企業倒産 2月の企業倒産（負債総額100万円以上）は、件数で13件（前年同月比85.7%増）、負債金額で47億93百万円（同27.0%増）となった。倒産件数は、5ヵ月連続で2桁台となり、倒産金額は、建設業の大型倒産があった前月比では減少



（資料：福島県農林水産部）



（資料：福島県酒造組合）



（資料：東北電力福島支店）

したものの3ヵ月連続で前年を上回るなど依然悪化増勢傾向にある。

倒産主因の内訳は、受注・販売不振で8件、業界不振、その他とともに2件、放漫経営1件となった。

業種の内訳は、建設業で6件、サービス業で3件、製造業で2件、卸売業、不動産業とともに1件となった。地区別は、浜通りで5件、県北、県南とともに3件、会津2件となった。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の2月末の預金残高は、6兆1,593億円（前年同月比2.1%増）となり12ヵ月連続で前年を上回った。

貸出金残高は、3兆7,986億円（前年同月比1.5%減）となり14ヵ月連続で前年を下回った。

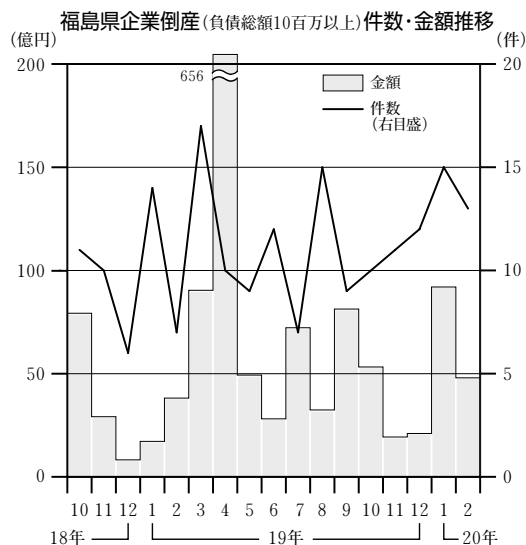
保証協会 2月の保証承諾は、件数で1,108件（前年同月比7.8%減）、保証金額で108億92百万円（同3.1%減）となり、ともに2ヵ月ぶりに前年を下回った。代位弁済は、件数で93件（同78.8%増）と大幅な増加となり2ヵ月ぶりに前年を上回った。金額では5億35百万円（同9.2%減）となり2ヵ月連続で前年を下回った。

雇用動向

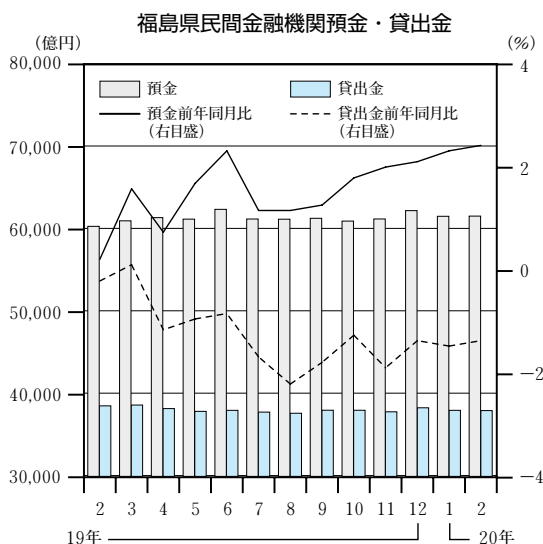
雇用動向 2月の新規求人数は、11,671人（前年同月比14.8%減）となり4ヵ月連続して前年を下回った。新規求職申込件数は、10,139件（同4.9%増）となり2ヵ月連続して前年を上回った。

新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、1.07倍（前月比0.03割上昇）となり2ヵ月ぶりに前月を上回った。一方、原数値は1.15倍（前年同月比0.27割低下）となり4ヵ月連続して前年を下回った。

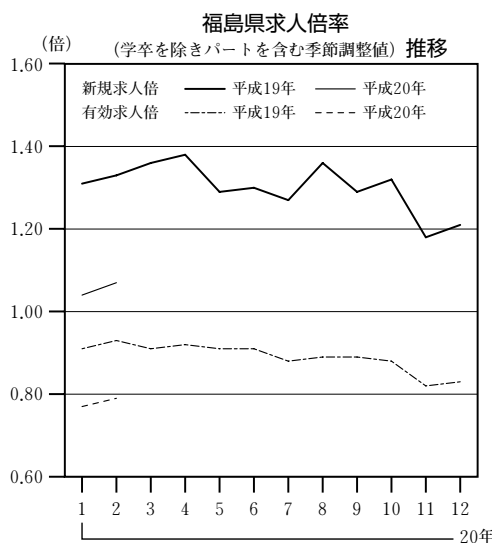
有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.79倍（前月比0.02割上昇）となり2ヵ月ぶりに前月を上回った。一方、原数値は0.82倍（前年同月比0.14割低下）となり4ヵ月連続して前年を下回った。



（資料：帝国データバンク福島支店）



（資料：日本銀行福島支店）



（資料：福島県労働局職業安定部）